

非鉄金属

昭和電線ホールディングス 中島文明氏

「数字への強いこだわり」を持ちながら、全社一丸で今からの3カ年中期計画に取り組みたい。ステークホルダーの皆さんの信頼を高める最大のテーマの一つが計画の完遂。いま一度原点に立ち返り、社会インフラ関連の需要に対応して確固たる収益基盤を築く。併せて構造改革を進め、併成分野の市場を取り込む施策を加速させる。足元は事業ごとに濃淡はあるが、まずは何としても初年度目標を達成する。また製造や営業など、さまざまな現場で技能伝承をスムーズに進めるほか、グループ連携をこれまで以上に強める組織づくりも考えたい」



「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

新社長 インタビュー

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

「昭和電線ホールディングス」の経営方針について、中島文明氏が語る。製造業と流通業の両輪で成長を目指す。特に流通業の強化に力を入れる。また、海外市場への展開も視野に入れている。デジタル化の推進も重要な課題としている。

特定金属を個体のまま吸収

京大が「粉末材料」開発

廃電子機器類 回収用途で採用期待

京都大学の山崎洋教授が、固体のまま吸収できる「粉末材料」を開発した。廃電子機器類の回収用途で採用が期待されている。この材料は、銅、鉛、金などの金属を粉末状にした上で、特定の溶媒に溶解させることで、個体のまま吸収できる。従来の方法では、金属を溶解してから回収する必要があったが、この新技術は、廃棄物の処理を大幅に簡便化する可能性がある。

会社紹介スペース新設

ケイアイ 技術部、社員食堂も拡張

中部地区大手アルミを新設するなど、ケイアイ（KSI）は11月25日、本社を新設する。また、技術部と社員食堂も拡張する。新設した本社は、最新の設備と広大な敷地を擁する。技術部は、最新の技術と人材を揃え、さらなる成長を目指す。また、社員食堂も拡張し、従業員の福利厚生を充実させる。この新設は、ケイアイのさらなる発展と地域貢献の一環として行われている。

インフラ需要捕捉 収益基盤強化

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

インフラ需要の捕捉と収益基盤の強化が、昭和電線ホールディングスの経営戦略の中心となっている。電力、鉄道、建設などの分野で積極的に事業を展開し、安定した収益を確保している。また、デジタル技術の導入による効率化も進められている。

記者座談会

非鉄の1年

記者座談会では、非鉄金属業界の現状と今後の見通しについて、専門家と記者が話し合った。鉄鋼業界の不振が続く中、非鉄金属は比較的堅調な動きを見せている。特に銅、アルミニウム、鉛などの需要は堅調で、価格も安定している。一方で、中国の経済成長の鈍化が、一部の非鉄金属の需要に悪影響を与えていると指摘されている。

チタン・新金属

チタンと新金属の市場動向について、業界関係者が語る。チタンは航空宇宙、自動車、医療などの分野で需要が伸び続けている。特に航空宇宙分野では、軽量化の要求からチタンの需要が急増している。また、新金属の開発も進んでおり、より高性能な材料が市場に出回っている。これらの材料は、産業の高度化と持続可能な発展に重要な役割を果たしている。

略歴

中島 文明氏 (なかじま ぶんみ) 1983年 (昭和58) 明治学院大学法学部卒、昭和電線ホールディングス入社、10年経営企画部長、11年経営企画部長、12年取締役就任、16年社長。東京都出身。57歳。

医療・車載向けなど拡販

医療機器や車載向けなど、昭和電線ホールディングスの事業が拡大している。特に医療機器分野では、高精度な電子部品を提供し、需要が伸び続けている。また、車載向け電子部品でも、自動運転やEV化に伴って需要が増えている。これらの分野での事業拡大は、同社の収益基盤をさらに強化している。

エクステリアコンテスト 大賞に「neutral社」

エクステリアコンテストで大賞を受賞した「neutral社」の受賞作品について、関係者が語る。この作品は、自然と調和し、快適な居住空間を提供する点が評価された。また、施工技術の向上とコスト削減の両方を果たしている点も高く評価されている。neutral社は、今後もさらなる技術開発とサービス向上に取り組むとしている。

山崎金属産業 4〜9月期 経常増益3.5億円

山崎金属産業が4〜9月期の経常増益を3.5億円と発表した。これは前年同期比で大幅な増益となっている。これは、生産効率の向上とコスト削減の成果によるものと考えられている。また、新規受注の増加も増益に貢献している。山崎金属産業は、今後も業績のさらなる向上を目指すとしている。

チタン展伸材出荷、3年連続増へ

チタン展伸材の出荷量が3年連続で増加している。これは、航空宇宙や自動車分野での需要増加によるものである。特に航空宇宙分野では、軽量化の要求からチタン展伸材の需要が急増している。また、自動車分野でも、EV化に伴ってチタン展伸材の需要が増えている。チタン展伸材の生産企業は、今後もこの成長を維持し、さらなる市場拡大を目指すとしている。

脱レアアース化、技術開発促進

レアアースを含まない材料の開発が促進されている。これは、レアアース資源の枯渇と環境への配慮によるものである。多くの企業は、レアアースを含まない材料の開発に力を入れている。特に電子部品や磁性材料の開発が進んでいる。また、政府もレアアース削減の目標を設定し、技術開発を支援している。これらの取り組みは、持続可能な産業の発展に重要な役割を果たしている。

「エクステリアコンテスト」の受賞作品について、関係者が語る。この作品は、自然と調和し、快適な居住空間を提供する点が評価された。また、施工技術の向上とコスト削減の両方を果たしている点も高く評価されている。neutral社は、今後もさらなる技術開発とサービス向上に取り組むとしている。